

〔実践報告〕

バージニア大学における高度専門看護師（APN）教育
に関する調査報告

正木 治恵 眞嶋 朋子 佐藤まゆみ 石井 邦子

The report of concerning educational situation for an advanced practice nurse
(APN) in University of Virginia

Harue MASAKI, Tomoko MAJIMA, Mayumi SATO, Kuniko ISHII

要 旨

看護学研究科における高度専門職養成教育のあり方を検討するための基礎資料として、米国の高度専門看護師（APN：Advanced Practice Nurse）教育に関する調査を行った。情報提供者は同大学院の教員、大学病院における臨床指導者、大学院生であった。調査項目は、バージニア大学大学院教育課程全体の概要、APNの理論的枠組み、老人看護、急性期看護（クリティカルケア、がん看護を含む）、助産師教育、NP（Nurse Practitioner）教育およびDNP（Doctor of Nursing Practice）教育、臨床指導の概要、大学病院におけるAPNの役割の実際についてである。米国では、NP、CNS（Clinical Nurse Specialist）、CNM（Certified Nurse-Midwife）、CRNA（Certified Registered Nurse Anesthetist）を総称してAPNとし、2年間の修士課程において養成するものとしている。このように統合した経緯には、実践現場でCNSとNPの役割を統合するような能力や役割が求められることと共に、一般看護師（ジェネラリスト）が担う実践とは異なる高度看護実践という概念が求められるようになってきたことがあげられた。更に、APNの上級にDNPを位置づけるなど、看護学の博士課程に、実践を重視した博士号（DNP）を設けることを推進していた。

Key Words：高度専門看護師教育，バージニア大学，調査報告

I. 調査の目的

本看護学研究科における専門看護師教育は、修士論文作成の研究中心の教育課程の中に4つの看護領域の専門看護師を希望する者のための科目と共通科目を開講している。その教育課程の共通科目に相当する看護教育学Ⅰ、看護管理学、看護実践方法論Ⅰ、看護実践方法論Ⅱは、専門看護師を希望するしないにかかわらず、毎年研究科入学生の8割以上が履修している。このように現在は、研究者養成教育の中に高度専門職養成教育を組み込んで実施している。今回あらためて今後の高度専門職養成教育のあり方を検討していくために、米国のAPN（Advanced Practice Nurse）教育に関する調査を計画した。調査目的は以下のとおり

である。

- 1) 米国のAPN教育の実際について知る。
履修要件・単位数、講義内容、臨地実習内容・方法、学生の修了後の進路、等に関する調査を行う。特にCNS（Clinical Nurse Specialist）とNP（Nurse Practitioner）をAPNとして統合した経緯や、各々の教育内容の相違、APNナースの臨床現場でのニーズや実際の役割について調査する。
- 2) 研究中心の教育課程と高度実践者養成の教育課程の相違を把握する。
- 3) 本看護学研究科における高度専門職養成教育のあり方を検討するための基礎資料を作成する。

II. 調査の概要

調査は、平成19年2月28日から3月4日の期間に、バージニア大学看護学研究科にて行った。情

報はインタビューおよび資料収集によって集めた。情報提供者は同大学院の教員、大学病院における臨床指導者、大学院生であった。

表1 調査スケジュールと対象者

<p>2007年2月28日 修士課程プログラムの概要 ・ Doris Glick, PhD, RN, Associate Professor, Director of Masters/Post Masters Program, Doctor of Nursing Practice Program</p>
<p>2007年3月1日 ANP教育の実際—老人看護 ・ Kathleen Fletcher, RN, MSN, APRN-BC, GNP, FAAN, Gerontological Nurse Practitioner, Director Senior Services & Assistant Professor of Nursing ・ Courtney Lyder, ND, Professor of Internal Medicine & Geriatrics ・ Suzam Williams-Rosenthal, RN, MSN, APRN-BC, GNP, Gerontological Nurse Practitioner, University of Virginia Health System, Senior Services ANP教育の実際—家族看護 ・ Catherine Kane, PhD, RN, FAAN, Associate Professor, Chair, Department of Family, Community & Mental Health Systems ・ Post-Master's Program students, Rose Lewis, Joanne McElroy and Audrey Myers. ANP教育の実際—急性期看護 ・ Arlene Keeling, PhD, RN, Centennial Distinguished Professor of Nursing, Director, Acute Care Nurse Practitioner Program & Director, Center for Nursing Historical Inquiry. 大学病院看護管理者会議に出席 DNSプログラム開発の経緯 ・ Am Hamric, PhD, RN, FAAN, Associate Professor of Nursing</p>
<p>2007年3月2日 大学病院におけるANPの活動 ・ Suzanne Burns, RN, MSN, RRT, ACNP, CCRN, FAAN, FCCM, FAANP, Professor of Nursing, APN2, Medicine/MICU and PNSO Research Program Director ・ Sharon Bragg, RN, Clinician, Clinical Coordinator, Medical Intensive Care Unit ・ Walter H. Mason, MSN, RN, CS, President-elect Professional Nursing Staff Organization, Clinician IV, Psychiatric Services 地域におけるANPの活動（小児看護） ・ Sarah Delgado, RN, MSN, APRN-BC, Assistant Professor of Nursing/Nurse Practitioner ANP教育の実際—助産 ・ Juliana van Olphen Fehr, CNM, PhD, FACNM, Coordinator, Nurse-Midwifery, Division of Nursing, Shenandoah University 総括, 将来展望 ・ Doris Greiner, PhD, RN, Associate Professor of Nursing & Director of Foundation and International Initiatives ・ Dr. Kathleen Cox, PhD, RN, Assistant Professor of Nursing</p>

調査項目は、バージニア大学大学院教育課程全体の概要、高度専門看護師（APN）の理論的枠組み、老人看護、急性期看護（クリティカルケア、がん看護を含む）、助産師教育、NP教育およびDNP（Doctor of Nursing Practice）教育、臨床指導の概要、大学病院におけるAPNの役割の実際についてであった。（表1）

III. 調査結果

1. バージニア大学大学院教育課程全体の概要

バージニア大学（英称：University of Virginia, 通称UVA）は、アメリカ合衆国バージニア州シャーロットビルに本部を置くアメリカ合衆国の州立大学である。合衆国の独立宣言の起草者であり、また第3代大統領でもあるトーマス・ジェファソンによって1819年に創立された。バージニア大学は10学部からなる総合大学で、政治家など著名な卒業生を数多く輩出しており、アメリカで最高の高等教育機関の一つとして有名である。

看護学部には、学士課程と大学院があり、大学院では、修士、博士、ポストマスター（修士修了後）、MSN/MBAジョイントディグリー、臨床看護リーダー養成（CNL；Clinical Nurse Leader）、ポストドクトラル（博士修了後）など、多彩な教育プログラムが提供されている。修士課程には、高度実践領域として、急性期ケア（NP, CNS）、プライマリーケア（小児NP, 家族NP, 老人NP, 地域看護L (leadership)/FNP (Family Nurse Practitioner))があり、その他に、保健システム管理、臨床看護リーダー養成コースが提供されている。

博士課程には、Doctor of Philosophy in Nursing (PhD) と Doctor of Nursing Practice (DNP) の2つがあり、どちらも研究論文の完成を求められるが、より臨床／エビデンスに基づく実践に焦点を当てるのがDNPで、PhDはより厳密な方法論が強調されている。PhD入学には看護学士または看護学修士の学位を持っていること、DNPは特定の臨床領域における看護学修士の学位を持っていることが条件となる。

DNP課程のカリキュラムは、コアコース（高度実践のための看護倫理、保健行動・ヘルスプロモーション研究、保健システムの概念・方法に関する研究、文化と健康、情報技術管理）13単位、特定領域の選択科目9単位、DNP実習10単位、DNP研究プロジェクト6単位の計38単位が課せられる。

2. 高度専門看護師 (APN) の理論的枠組み

米国では, CNS, NP, CNM (Certified Nurse-Midwife; 看護助産師), CRNA (Certified Registered Nurse Anesthetist; 麻酔専門看護師) を総称してAPN (高度専門看護師) とし, 2年間の修士課程において養成するものとしている. このように統合した経緯には, 実践現場ではCNSとNPの役割を統合するような能力や役割が求められることもあるが, 一般看護師 (ジェネラリスト) が担う実践とは異なる高度看護実践として統合する概念が, 求められるようになってきたことがあげられる.

APNのコアとなる能力としては, 以下の6つがあげられ, それらの概念図も提示されている¹⁾.

- 1) 患者, 家族, 他のケア提供者に対する卓越した指導・コーチング
- 2) コンサルテーション
- 3) エビデンスに基づく実践, 評価, 行為の活用や遂行を含む研究能力
- 4) 変革者としての能力を含む臨床専門家のリーダーシップ
- 5) 協働
- 6) 倫理的意決定能力

3. 米国のDNSプログラム開発の経緯

以下の内容は調査対象者Ann Hamric氏から聴取した内容を要約したものである.

アメリカ看護大学協会 (American association colleges of nursing) では, 2つのグループを作り, 博士レベルの実践についてと, エッセンシャルタスクフォースのグループでコンピテンシーを検討してきた¹⁾.

1994年, アメリカではANP教育が修士レベルである必要性について同意しているグループは少なく, 日本においてもCNSに関する検討が行われ, 聖路加看護大学における公開講座の中で, Ann Hamric氏は, CNS教育には修士レベルが必要であることを強調した²⁾. それは, 最高のレベルの看護実践には高いレベルの教育が必要であり, 多くの種類のスペシャリストの教育制度があると混乱を招くと考えたからである. 日本滞在中にAPNに共通した能力について討議した結果をまとめ出版した³⁾. すべての大学がAPNプログラムを大学院レベルの教育に移行することを認めていなかったが, その後少しずつ大学院でのプログラムが増えてきた.

現在, APN後に博士号をとる人も輩出されており, APNの次の段階である博士レベルへの発展に関する議論が起こっている. そして, DNP

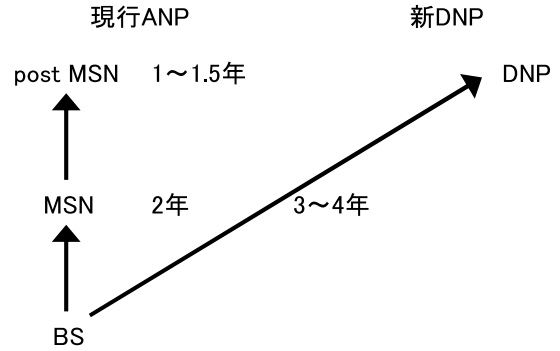


図1 現行のANPプログラムと新DNPプログラム

注) 左の矢印は現行の学士課程 (BS) から修士課程 (MSN) 2年修了し, 修士修了後コース (post MSN) で1~1.5年学習した後にANPとなる流れを示した. 右の今後新しくできるDNPプログラムは, 修士課程と修士課程修了後コースを統合し, さらに博士課程の内容も含め計3~4年間の課程であることを示した.

プログラムが作成された (図1). 現在のところ, 必ずしも多くの人がこのDNPプログラムに同意しているわけではない. しかし, アメリカ看護大学協会のDNPタスクフォースグループでは, 2015年までにはANPプログラムの約半数がドクターレベルのコースになることを目標としている.

DNPの拡大領域 (expanded area) として, 以下が検討されている.

①研究によって示された根拠を用い, 実践を変化させる.

APNよりもさらに研究を使って実践を変化させる.

②組織調整リーダーシップ

APNは医療機関, ナーシングホーム, 等において難しい組織的な問題を変化させることが求められている. 職員の勤務体制に関する管理ではなく, 特定の患者の問題に焦点を当て, 組織調整リーダーとしての役割が期待されている. つまり, この領域はケア提供システムの変革である.

4. ANPが管理者に理解を得て協働するために必要な教育

Ann Hamric氏は, バージニア大学において, APNが管理者やスタッフから理解を得るために, 以下が重要であることを指摘している.

第一番目は, 学士課程において, ANPのための大学院教育を紹介することである. 米国では, 長い期間, 看護教育について正当な評価がされず, 一般的に経験が評価されてきたため, 多くのスタッフや管理者がANPについて理解しているわけではない. 看護師として成長するための1つの方法として, 大学院におけるANP教育を学士課

程の学生に教授することは重要であると考えている。

二番目は、ANPを専攻する大学院生に、自己の実践履歴を残す方法として、ポートフォリオの作成方法を教授している。

三番目は、ANPを専攻する大学院生に、臨床において、自分の役割を端的に表現する方法を指導している。具体的には、すなわち、自分の役割を明確に1文で示す訓練をしている。例えば、医師に説明するために「私はCNSで、脊髄損傷で複雑な状態にある患者さんに対して、病院において最良のケアをおこなうことができます。」というような文章を作成し、それを使って、自分の役割を表明するというようなことである。

それから自分の祖母に他の文章で説明をしてもらおう。祖母でなくても良いが、専門職ではない、高齢の人を選んで説明できるように指導をしている。また看護管理者と葛藤無く仕事ができるように自己の役割を説明できるように訓練をしている。自分の役割を明確に述べ、交渉するための対人関係、コミュニケーションスキルについて準備することが重要である。これらのことについては、Ann Hamric氏の著書³⁾中のCNSの章と協働の章の部分に、看護師、医師、理学療法士との連携の問題として説明されている。

また、Ann Hamric氏は、CNS実習内容やCNSの役割について以下のように説明した。現在のCNS専攻学生は、医療機関においてCNSの役割モデルにふれることができ、看護学生や新人CNSはCNSを通して自己の役割を発展させることができるようになってきている。しかしCNS教育が始まった当初は、CNSが多くないため、実習指向のプロジェクトを作った。例えば、がん専門看護師の場合に、化学療法が行われ複雑な問題を持つ患者教育用の教材を作り、それを実施評価することを求めた。また、学生が病棟に入り、スタッフの学習ニーズを探求し、教材を作り評価をするようなことを実施した。

これまでのCNSの役割は、臨床実践、コンサルテーション、研究、教育の4つが示されていた。現在は、CNSの役割を3つのフィールドとして示している。1つめは患者・家族へのケアのフィールドであり、2つめは看護師に影響するフィールド、3つめは組織のフィールドである³⁾。3つめの組織のフィールドは、CNSに特徴的な領域であり、すべてのAPNに期待されているわけではない。CNS学生の初期段階では、複雑な問題を持つ特別な領域の患者に対する直接的なケアと、高度

なアセスメント技術や、研究知識の活用が求められる。次に他の看護師の学習ニーズに注目し、その次にケア提供組織に注目していく。例えば、多くの部署で、脊髄損傷患者のケアのプロトコールを作成し、他部署の看護師がそれを活用できるようにし、組織におけるケアの流れを調整していく。このように組織に着目してケアの質を高める実践が、CNSに期待されており、この実践には管理者との協働が必要である。

5. 高度専門看護師 (APN) 教育の実際

1) 老人看護

大学病院の老人看護ナースプラクティショナー (Gerontological Nurse Practitioner) の方々から、NPの活動や教育について説明があった。2006年現在、大学病院の入院患者のうち65歳以上の高齢者は45% (1994年は35%) で、高齢者の割合が増加しており、それに伴い老人に特徴的な問題への対応が必要であることがあげられた。老年科のベッドは10床であるが、老人NPはそこにとどまらず、各病棟での老人看護に関するコンサルテーションならびに看護師への教育を行っていた。大学病院での主な高齢者の問題はせん妄とのことだった。大学病院以外にも、地域のナーシングホームでのコンサルテーションや教育を行っており、プライマリーケア領域でケア提供者となる役割が期待されていた。同席した内科・老年科教授からは、大学病院と大学との連携の重要性が協働された。

2) 急性期看護

今回紹介されたコースはNPとCNSが共通して修得するプログラムである。資料に基づいて、コースの内容が説明された。セミナー1では、討議と講義を通して学生は急性期、慢性期の連続性を含む複雑な臨床状況下における患者に対して、系統的にアプローチする学習が行われる。

内容の焦点は、心血管系、呼吸器系、脳神経系の機能障害を有する患者の診断、計画、評価のスキルを発展させることである。1週間毎3時間のコースである。

学生は事前に指定されたケーススタディーのテキストを読んで参加することが求められ、授業ではケースを学習してきたことを前提に学生からの質問を求める (学生数18名)。

セミナーIIではセミナー1と同様に3時間の講義と討論を中心に行われ、テキストやケースについて事前に学習してから、授業に参加することが求められ、免疫、内分泌系、筋骨格器系、腎系の健康障害を持つケースの学習が行われる。

3) がん看護

バージニア大学看護学部には、がん看護領域のCNSを養成するための特別なコースはなく、がん看護領域における専門的看護の学修は、ACNPをめざす学生とCNSをめざす学生が合同で学習するAcute Care Nurse Practitioner Programの中で提供されていた。

臨床実践において、ACNPは、医学的診断をくだし医学的管理を行うことが求められる。医学的診断をくだし医学的管理を行うことは医師と同様であるが、ACNPは看護職者でもあるので、例えば、医師が患者の病態に関心をむける一方で、ACNPは病態に関心をむけつつも、患者が自分の病気をどのように受け止めているか、病気を抱えての生活をどのように営んでいるかといったことにも関心をむけるため、患者をより深く包括的に理解することができ、その結果、よりよい医療を提供することに大きく貢献できる。

一方、CNSは、看護診断を行い、患者ケアに責任を負う。CNSは、医学的に、あるいは心理社会的に複雑な状況の患者に対して卓越したケアを自ら行うと同時に、そのような患者のケアに関してスタッフの相談にのったり教育・指導を行ったりする。Acute Care Nurse Practitioner ProgramにおいてCNSをめざす学生は、ACNPをめざす学生同様に医学的診断方法や医学的管理方法を学修する。しかし、CNSは医学的診断や医学的管理が実施できることは必ずしも必要ではなく、患者を理解するための知識として学修する。

4) 助産

米国の助産師Certified Nurse-Midwife (CNM)の教育は、認定された修士課程で行われており、国家試験を受けてCNMと認定される。CNMは、国家資格であり、米国のどの州でも通用することがRNと異なる点である。

CNMの活動の特徴は、クリニックを訪れる全ての女性を対象にケアを行うことである。妊娠・出産だけではなく、糖尿病、高血圧、貧血、肥満など、さまざまな問題に対して、ウィメンズヘルスの専門家として関わっている。また、プライマリーケアであることが大きな特徴であり病気の治療だけではなく、教育や予防、セルフケアを提供する。

特に、米国の高い乳幼児死亡率を減少させることがCNMの重要な役割である。妊娠は病気ではなく健康なことであり、コミュニティの中での母子のケアが必要になってくる。経済的事情によって妊婦検診を受けない母子に対し、コミュニティ

の中で合併症を予防するための食事や妊娠生活について話をすることが重要である。

バージニア大学には助産師教育プログラムがなく、州内にあるシェナンドー大学のCNMプログラムを受講できるシステムになっている。1年目に修士課程共通のコアコース22単位を、2年目に専門コース22単位を履修する。専門コースは、講義10単位、実習12単位である。実習は、1単位60時間で、週に4日行う。分娩介助だけではなく、クリニックでのプライマリーケアや周産期の統合実習など幅広く行っている。

CNMプログラムは、コストがかかるという理由から、設置する大学が不足している。そのため、遠隔授業や単位互換制度の導入によって、養成数を増加させる工夫をしている。遠隔授業は、3週間の集中講義以外は全てオンライン上のプログラムとなっている。集中講義はシェナンドー大学での授業となるが、それ以外は全てオンライン上のプログラムである。試験もオンライン上で行う。臨地実習は、学生の近隣施設で行う。実習指導者には、実習内容や指導方法について、オンライン上で説明・講習を行っている。

単位互換制度は、提携大学の修士課程の学生が対象であり、在籍する大学から与えられる修士の学位に加え、CNS認定試験の受験資格が得られる提携大学には、Johns Hopkins大学などがある。

6. まとめ

米国では、CNSやNPなど4つの専門看護職の資格を統合してAPNとし、更にその上級にDNPを位置づけた。看護学の博士課程に、実践を重視した博士号(DNP)を設けることを推進しており、中でもPhDとDNPは同一看護学研究科に両方のコースを設けることが望ましいとしている。実践の科学である看護学の研究では、高度な実践と高いレベルの看護研究は切り離せないものであるとする傾向が伺える。これらは、今後の日本における看護の高等教育のあり方を検討する上で示唆を与えるものと考えられる。

引用文献

- 1) American association colleges of nursing: The essentials Education for advanced nursing practice, <http://www.aacn.nche.edu/DNP/pdf/Essentials.pdf>, 2006
- 2) Ann B. Hamric: クリニカル・ナーススペシャリスト(CNS)の役割と教育, 看護研究, 27(1), 34-52, 1994.
- 3) Ann B. Hamric, Judith A. Spross, Charlene

M. Hanson: Advanced practice nursing-Integrative approach Third edition, Elsevier Saunders, 2005.